

第11回 西宮市・芦屋市ごみ処理広域化検討会議

令和2年11月24日（火）
西宮市西部総合処理センター

1 第10回検討会議 西宮市からの提案

No.5 【建設費と運営費の削減効果率が同じ】 建設費：約18% 運営費 約30% (単位：百万円)

	単独施設				広域処理施設							
	西宮市	芦屋市	1人当たり負担額(円)		事業費	均等割率(%)	負担額		削減効果額		1人当たり負担額(円)	
			西宮市	芦屋市			西宮市	芦屋市	西宮市	芦屋市	西宮市	芦屋市
建設費	10,868	5,553	45,599	57,636	13,480	33.0	8,929	4,551	1,939	1,002	37,463	47,236
運営費	20,378	13,406	85,499	139,144	23,634	58.0	14,223	9,411	6,155	3,995	59,675	97,679
合計	31,246	18,959	131,098	196,780	37,114	—	23,152	13,962	8,094	4,997	97,138	144,915

【西宮市委員の意見】

- 検討その1の具体的な例として、いくつかのパターンを検討した。効果額という点を考えると、建設費・運営費で、(西宮市対芦屋市) 6:4ぐらい(例えば上記No.5)まで行かないと難しい。
- 環境負荷や処理責任を負う立場として、芦屋市から一定の負担をいただきたい。純然たる固定費的な意味での均等割だけではなく、そういう部分を含めた均等割と考えている。
- 均等割での費用負担に代えて「検討その2」で示されている、お金を動かすことも否定するものではない。

2 費用負担の基本的な考え方

【第9回検討会議資料P4より】

(1) 前回(第8回)検討会議 会議資料 (焼却施設費用負担)

【会議資料 P14抜粋】

5. 費用負担の基本的な考え方

広域化のメリット（効果額）が大規模側に薄く、小規模側に厚くなる法則性の中で、広域化を進めるために「両市が納得できる」費用負担の基本的な考え方。

- (1) 「両市が納得できる費用負担のあり方」の観点から、一定の公平感を確保する。
- (2) 両市が共同でごみ処理を行う観点から、広域化のメリット（効果額）を「両市全体のもの」として捉える。

3 基本的な考え方を踏まえた協議の方向性

【第9回検討会議資料P5より】

(1) 前回(第8回)検討会議 会議資料(焼却施設費用負担)

6. 基本的な考え方を踏まえた協議の方向性

【会議資料 P15抜粋】

資料14ページ(1)(2)を基本的な考え方とし、「両市が納得できる費用負担のあり方」を次の2点において捉えて、引き続き協議を進める。

- (1) 効果額の均衡を図る。
- (2) 効果額の活用を図る。



今後の協議事項

- 効果額を均衡にする方法
- 効果額を活用する方法
- その他必要な事項



協議事項を検討する。

検討その1

検討その2

4 検討その2について

【第9回検討会議資料P9より】

(1)両市で広域化を実施するに際して着目すべき視点 検討その2

- 広域化を実施する一般的なメリット
 - ・経費の削減と環境負荷の低減が図れる。



- 両市で広域化を実施するに際して着目すべき視点
 - 1.近年のごみや環境を取り巻く社会情勢を鑑み、環境全般への取り組みが求められる。
 - 2.ごみ処理を引き受ける施設（広域処理施設）への配慮
 - 3.広域化を実現するための中継施設等の設置・運営費用の財源の捻出が必要
 - 4.経費の削減等
- ※これらの視点に基づき、効果額の均衡と活用を図る。

4 検討その2について

【第9回検討会議資料P11より】

(3) 効果額を活用する

検討その2

【1】の内容

- ①活用：循環型社会形成の推進に資する環境の創造及び環境学習の促進など，地球環境問題にも通じる取り組みを行うことにより，持続可能な社会の構築に寄与すると共に，ごみ処理を引き受ける施設に対する環境保全に取り組む。
- ②必要性：(1)近年のごみや環境を取り巻く社会情勢を鑑み，環境全般への取り組みが求められる。
(2) ごみ処理を引き受ける施設（広域処理施設）への配慮
- ③事業費：28億円
- ④実施方法：基金創設，協議体の設置等が考えられる。

【2】の内容

- ①活用：広域処理施設にごみを搬入するための中継施設等の設置と運営
- ②必要性：広域化を実現するための中継施設等の設置・運営費用の財源の捻出
- ③事業費：43億円
- ④実施方法：積替施設，その他プラ中間処理施設等の建設と運営

【3】経費の削減等

5 【持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について（通知）環境省 平成31年3月29日】（一部抜粋）

1. 広域化・集約化の必要性

(1) 持続可能な適正処理の確保

(2) 気候変動対策の推進

(3) 廃棄物の資源化・バイオマス利活用の推進

(4) 災害対策の強化

(5) 地域への新たな価値の創出

…(略)…広域化・集約化により、このような特徴を活かした社会インフラとしての廃棄物処理施設の機能を一層高め、地域の特性や循環資源の性状等に応じて、地域循環共生圏の核となりうる施設整備を推進するなど、地域に新たな価値を創出する廃棄物処理システムを構築していくことが重要である。

6 負担額の比較

(単位：百万円)

検討事例 均等割率(%)		西宮市負担額 (事例№1比較)	芦屋市負担額 (事例№1比較)	説明
1	【事例№1】 建設費0 運営費0	27,552 (—)	9,562 (—)	処理能力割・ごみ排出量割
2	【事例№2】 建設費10 運営費0	27,226 (△326)	9,888 (326)	他団体最頻値
3	【事例№4-1】 建設費33 運営費31	24,698 (△2,854)	12,416 (2,854)	効果額均衡
4	【事例№5】 建設費33 運営費58	23,152 (△4,400)	13,962 (4,400)	新たな西宮市提案

7 削減効果額の比較

(単位：百万円)

検討事例 均等割合(%)	西宮市削減効果額 (事例No1比較)	芦屋市削減効果額 (事例No1比較)	説明
1 【事例No1】 建設費0 運営費0	3,694 (—)	9,397 (—)	処理能力割・ごみ排出量割
2 【事例No2】 建設費10 運営費0	4,020 (326)	9,071 (△326)	他団体最頻値
3 【事例No4-1】 建設費33 運営費31	6,548 (2,854)	6,543 (△2,854)	効果額均衡
4 【事例No5】 建設費33 運営費58	8,094 (4,400)	4,997 (△4,400)	新たな西宮市提案

【参考：芦屋市中継施設費用 4,372】

8 市議会(所管する委員会)の意見(概要)

第10回検討会議について、両市とも市議会(所管する委員会)に報告し、そこでいただいた意見の概要は以下のとおり。

西宮市

- ・広域化のメリットは分かるが、このスケジュールで焦ってやらないといけない事業ではない。
- ・検討すべき課題が山積みであり、期限を延ばしてでもしっかり検討していくべきである。
- ・広域化となるとその他プラなど収集も同じようにしないとイケないが、芦屋市の実情を考えると時間的に困難ではないか。
- ・広域化の検討を始めてから何年も経っており、計画も2年遅れている。パブリックコメントに向け、いつまでに何を決めないとイケないのかのスケジュールを立てて協議すべきである。
- ・西宮市側が環境負荷などを負うことになるので、そのあたりに関してはしっかりと協議していただきたい。

芦屋市

- ・両市のメリットが整理されているのか。芦屋市民がこれだけの負担をして事業をやるのは難しい。
- ・NO5は両市の削減効果割合が同じで評価できる。芦屋市がこの事業で負担するものが結構盛りだくさんあるようだ。
- ・広域化は環境負荷軽減など大きな観点で進めてほしいが検討会議の内容は残念。費用負担は市民への説明が難しい。
- ・両市の効果額は両地域の環境に使う認識は両市は最初は持っていたと思うが芦屋市は持ち続けているのか。市としてしっかりした案で検討会議に臨んでほしい。
- ・広域化は否定しないが単独がベスト。市民はリスクヘッジが心配なので早い段階で提案が欲しい。
- ・両市長が同じ意見を持てばうまくいく。
- ・思っていたほどメリットがない。議会としても少し議論しないとイケない。

9 まとめ

費用負担の基本的な考え方として、

- (1)「両市が納得できる費用負担のあり方」の観点から、一定の公平感を確保する。
- (2)両市が共同でごみ処理を行う観点から、広域化のメリット(効果額)を「両市全体のもの」として捉える。

- この2点を基に協議を進めてきたが、現在においても、基本的な考え方を踏まえた実施内容について、集約にいたっていない。
- 一方、第10回検討会議で「広域化を想定した場合のスケジュール(案)」が示された。

以上を踏まえ、今後、どのように検討を進めるか。